

# エゴマ-タマネギ-キャベツによる 高冷地での2年3作体系の実証(川内村)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 エゴマの機械化栽培体系および輪作体系の実証

担当者 根本知明、松木伸浩

## I 実証技術の解説

### 1 要旨

川内村内の高冷地では、エゴマ栽培の後作として、春まきタマネギと冬キャベツの栽培を組み合わせることにより、2年3作体系が可能となる。

- (1) エゴマの後作として11月に定植した秋まきタマネギは、厳寒期に約50%が枯死し低収となった。しかし、翌4月に定植した春まきタマネギは、7月下旬に全て収穫できた(図1、表1)。
- (2) 次に、春まきタマネギの後作として8月下旬にブロッコリー及び冬キャベツを定植すると、ブロッコリーは降雪のため多くが未収穫となり、冬キャベツは11月中旬から12月上旬に収穫できた(図1、表2)。
- (3) 作業機械は、半自動移植機がエゴマとキャベツ、平畝成形機がタマネギとキャベツに共用可能である。

### 2 期待される効果

- (1) 高冷地における、エゴマと組み合わせる品目選定の参考になる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 本展示ほは、標高530mにおける試験である。
- (2) エゴマ後作ほ場では、エゴマの雑草化対策が必要である。
- (3) 作業が遅れると次作に影響するので、品目間のほ場準備は計画的に行う必要がある。
- (4) タマネギ、ブロッコリーの育苗には、ハウスが必要である。

## II 具体的データ等

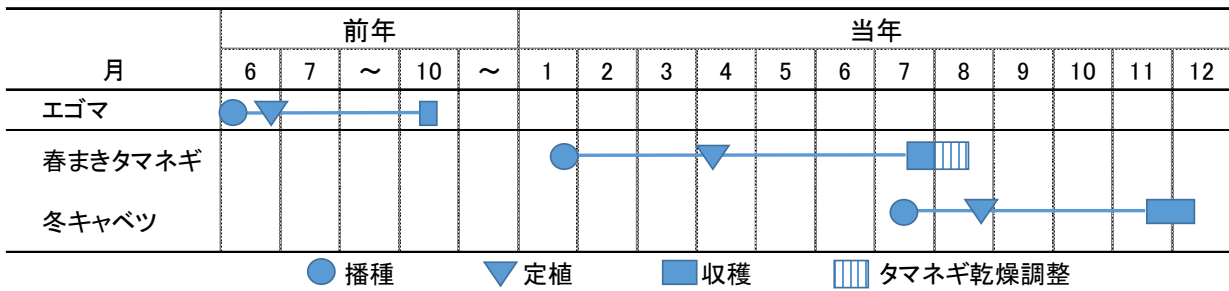


図1 エゴマ-春まきタマネギ-冬キャベツによる高冷地での2年3作体系(川内村)

表1 高冷地での2年3作体系におけるタマネギ栽培(川内村)

作型	収量 [t/10a]	収穫 [月日]	収穫時の欠株率 [%]
秋まき	0.6	7月10日	53
春まき	3.3	7月21日	0

注1) 定植: 秋まき 平成28年11月8日、春まき 平成29年4月5日(無マルチ栽培)

注2) 品種: もみじ3号(中晩生)

表2 高冷地での2年3作体系における冬キャベツ・ブロッコリー栽培(川内村)

品目	収量 [t/10a]	収穫割合[%]			
		11月15日	11月24日	12月5日	12月15日
冬キャベツ	3.5	50	85	95	-
ブロッコリー	0.1	0	0	0	7

注1) 定植: 平成29年8月30日(マルチ栽培、10月4日から収穫までトンネル被覆)

注2) 栽植密度: 2,800株/10a(畝間1.2m×株間30cm)

注3) 品種: 冬キャベツ「將軍」(極早生)、ブロッコリー「おはよう」(中早生)

## III その他

### 1 執筆者

根本知明

### 2 実施期間

平成28年~平成29年度

### 3 主な参考文献・資料

(1) 平成28年度営農再開実証技術情報「エゴマの機械化体系栽培の実証(川内村)」

(2) 「東北・北陸地域におけるタマネギの春まき栽培技術」平成27年度・(国研)農研機構東北農業研究センター